



時事評論家 増田俊男

## 「世紀の津波」(ツナミ) がやって来る！

「こころ一番！」の常連の皆様には株価の「二番底」は何がきっかけで起き、「何時起きて、いくらまで下がるか」を伝えてある。(底の期日も株価もほとんど間違いないはず)二番底から米大統領選の11月に向けてNY株価が回復しトランプが当選した後(もし暗殺されなければ)、「世紀の津波」が起きる。

昨年10月28日世界の軍人オリンピックと言われる「2019 ミリタリーワールドゲーム」(主催 International Military Sports Council: CISM)が武漢で開催された。武漢は50を超える国の110以上の都市と姉妹都市関係を結んでいることから109カ国から総勢5万人以上が参加した。参加人数が最も多かったのは300人以上の軍人を送り込んだアメリカで、次がイタリア、フランスと続く。

中国は5万人もの人間が武漢に入国することから、コロナウイルス感染者がいると想定して一か月前9月28日に武漢空港でウイルス発症を想定して行動演習をしたが、想定通り12月8日に空港ではなく海鮮市場で新型コロナが発症した。中国政府は海鮮市場のサンプルの分析を急ぐと同時にアメリカ人その他外国人の帰国(感染)を待って武漢を完全封鎖した。中国政府は当然北京から武漢への派遣者数を必要最小人数に制限し、帰還者の消毒を徹底したので現在は感染も死亡者も終息している。韓国、日本の参加者はないも同然、台湾は不参加だったので三国ともアメリカに比べれば感染者、死亡者数共にゼロ同然である。新型コロナを短期間で世界に感染させるには100カ国以上の国から5万人以上が集まる武漢に散布するのが最も効果的であることは事前に分かっていた。

現在の新型コロナ被害状況は参加者数が最も多かったアメリカが最悪でイタリア、フランス等参加者数順になっている。

新型コロナによる外出禁止で消費と生産活動が大幅に制限され原油需要が日産2,000万バレル減少した為NY先物市場の原油価格が一時史上初のマイナス37ドル(3月20日)を付けたが、現在やっと20ドル前後まで回復したが価格は停滞したままである。もし2-3週間のうちに原油価格が30ドル迄回復しないと 사우ジ や ロシア は持ちこたえるが「アメリカのシェール企業の200社以上が倒産する」、これが二番底のきっかけになると「こころ一番！」の皆様に伝えた。

私は「小冊子」その他で「8000年の人間の歴史が終わる」、そして「戦後の現行政治・経済体制は崩壊する」と機会がある毎に述べてきた。

原油価格が暴落したままで停滞しているのは、飛行機が飛ばなかったり、自宅待機で自動車を運転しなくなったからだけではなく、世界経済の生産が停滞しモノとサービスの供給激減、今までの需給関係が逆転したからである。

トイレットペーパーが買えなくなり価格が高騰しているのはマスクや紙製白衣需要急増の為だけではなく、「原油価格の下落に反比例して物価が急騰する」ことの予告である。これから物価上昇、インフレになるのに、中央銀行は新型コロナ被害救済の為無制限金融緩和を強いられている。来るべきインフレを前にして中央銀行が無制限緩和をすればインフレを煽ることになり「ハイパーインフレ」は避けられない。

人間は、限界になっている現行金融・財政制度は新しい制度に変革すべきだと分かっているが実行出来ないのだから「新型コロナウイルスの力を利用する」しかないのである。

これから起こることは「二番底」などという生易しいことではない！

ここは思い切って増田俊男の「インターネット国際政経塾」で勉強しないと、今まで苦労して築いた財産が数年のうちにゴミ山に捨てられることになることを肝に命じてもらいたい。

いち早く事態の緊急性を知って誰よりも先に「安全地帯」へ移動することだ！

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、  
事前にマスタ U.S. リサーチ ジャパン 株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。